

## I.分科会

日時

：令和 6 年 10月30 日（水）11:20－12:10

方法

：ハイブリッド（札幌市産業振興センターセミナールーム 2 ・ Zoom ミーティング）

出欠（敬称略）

現地出席

：磯、玉腰、井上、金子、小林、田高、多屋、中村、東、田淵、橋本、戸津崎、佐々木

オンライン出席

：秋葉、瓜生原、川上、田中、野原、森

欠席

：野口、今中、後藤、芳賀、久保庭

議 題：

### （1）公衆衛生人材育成について

公衆衛生人材の定義については、職種、資格、学位、分野、領域等からみて多様で広範囲に及ぶことを共通認識のうえ、今期では、網羅的ではなく、焦点的に議論することを目指し、可能性のあるテーマ（報告を念頭）について議論した。主なテーマ、質疑、意見等は、以下の通り。

テーマ 1：公衆衛生/公衆衛生人材育成における多分野連携、協働のテーマについて

- ・ブーカの時代を踏まえ、公衆衛生/公衆衛生人材が多分野連携、協働で取り組むべきテーマを議論し、現状を整理してはどうか？例えば、国民のウェルビーイング、民産官学連携のあり方、経済的評価、保健行動変容、人口減少と働き方改革等、課題は山積。

テーマ 2：SPH における現状と入口・出口の課題について

- ・人材育成の教育課程のあり方という観点から、まずは、大学院（SPH）に焦点化し、その現状や課題を論じてはどうか。
- ・SPH 終了後の進路は幅広もしくは明確でなく、また社会のほうにその受入れ体制が整っていないこと等が課題として指摘できる。
- ・SPH 人材の出口として、産業界、教育研究機関、自治体、国（ポリシーメイキング人材）等々を意識した将来的、戦略的な検討が必要。
- ・SPH 修了者の有資格者と無資格者の出口に異なる現状があることを踏まえ、公衆衛生学修士（専門職）の「学位」の観点からの出口戦略の検討も必要。

テーマ 3：基礎教育課程（学部）における公衆衛生学教育の現状と課題について

- ・SPH 入学者に多様な背景が見られることを踏まえ、入口前の学部教育（医歯薬、看護、獣医…）における公衆衛生学の教育のあり方（さまざまな学部、学科、コース等における現状等）について整理してはどうか。

上記ならびに令和 6 年 10月30 日（水）15:25－17:00 シンポジウム：「サステナビリティな社会を創るために公衆衛生はどうあるべきか」を踏まえ、引き続き検討することとなった。

### （2）喫煙対策（意思の表出）の進め方について

喫煙対策については、加熱式タバコにフォーカスした実態や方策が十分とは言えない現状について共通認識のうえ、今期では、加熱式タバコに焦点化し、田淵委員を中心に本分科会として（必要時、他の分科会とも連携し）、時機を逸せず、広報のタイミングも意識して、意志の表出（見解）を目指すことで合意した。主な質疑、意見等は、以下の通り。

- ・加熱式タバコ（新型タバコ）に焦点化した喫煙対策については、十分とは言えず、日本学

術会議として（本分科会として）時機を逸せず、問題提起する必要がある。

・加熱式タバコ（新型タバコ）が急速に日本に（だけで）普及したのは、なぜなのか？→  
あたかも健康リスクが低いかのように実態不明のままプロモーションされたから。

・加熱式タバコ（新型タバコ）に対するパブリックヘルスの立場からの対応強化を進める  
に際し、必要な提言先と提言内容は？

→各省庁の公的統計（調査）および特定健診の標準的質問票において、加熱式タバコの  
使用等に関する具体的な質問項目を加えることで、国民の実態をより正確に把握するこ  
とを促す。

→健康リスク評価の強化と公開にむけて加熱式タバコの短期・長期的な健康リスクの科  
学的評価を推進し、国や自治体、医療従事者等への情報提供を促す提言する。 等

会議資料（メール・席上配布）

：日本学術会議第26期第6回第二部会資料(意思の表出について), 令和6年10月22日(火)  
9:30~12:00

## II. 日本学術会議健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会主催シンポジウム

以下のとおり開催された。

日時

：令和6年10月30日（水）15:25–17:00

会場

：第83回日本公衆衛生学会／札幌コンベンションセンター204)

テーマ

：サステナビリティな社会を創るために公衆衛生はどうあるべきか

座長

：橋本 英樹（東京大学大学院）・中村 桂子（東京科学大学大学院）

演者

佐々木周作（大阪大学大学院）

：パンデミック下の感染症政策に資する行動経済学研究：アカデミアと行政の協働に  
よる社会実装

戸津崎貴文（PwC Japan 合同会社）

：企業のサステナビリティの一端を担う産業保健の立場から

野口晴子（早稲田大学政治経済学術院）

：学際領域としての医療経済学の立場から考える社会実装

中村桂子（東京科学大学大学院）

：パブリックヘルス科学の超学際融合フィールドへの展開

挨拶

：磯 博康（国立国際医療研究センター）・玉腰 暁子（北海道大学）、

次回分科会：未定（適宜メール会議）

以上